

京丹後市立図書館

2022年度

おすすめの本

中学生

『泣いたあとは、新しい靴をはこう。』 10代のどうしてもよくない悩みに
作家が言葉で向き合ってみた』（ポプラ社）

日本ペンクラブ/編



親友を裏切ってしまったけど、どうしたらいいですか？
校則って理不尽じゃないですか？ 自分のこと、人間関係、将来…。ティーンの悩みに、森絵都、沖方丁、俵万智ら44名の作家が本気で答えます。

『武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方』（平凡社）

宮田 律/著



2019年12月、アフガニスタンで凶弾に倒れた中村哲医師。35年にわたり、パキスタンとアフガニスタンで人道支援にあたった生涯をたどりながら、その生き方、考え方を伝える。

『化石ハンター 恐竜少年じゃなかった僕はなぜ恐竜学者になったのか?』（PHP研究所）

小林 快次/著



世界トップクラスの恐竜研究者は、恐竜少年ではなかった!? 恐竜より好きだったもの、嫌いだった勉強が楽しくなった理由、2億年ぶりの出会い…。恐竜学者となった著者が、これまでの人生と恐竜が教えてくれたことを伝える。

『気がつけば動物学者三代』（講談社）

今泉 忠明/著



ネズミやヘビやコウモリがウロチョロする家。哺乳類を捕まえるだけでなく、標本作りもマスターした小学生時代…。父も兄も息子も動物学者という著者が、生の動物エピソードとともに、動物学者になるまでの道のりを語る。

『池の水なぜぬくの? 外来種を探すだけではない“ほんとうの理由”』(くもん出版)

安斉 俊/著・絵 勝呂 尚之/監修



池の水ぬきは、外来種を見つけるだけが目的ではなく、池に“洪水が起きたあとの状態”をつくり、池の生きものを守るための科学的な取り組み。神奈川県の水ぬきのようすを紹介する。

『縄文の狼』(くもん出版)

今井 恭子/作 岩本 ゼロゴ/画



狼と人とは住む世界が違った。父さんたちが、こえてはならぬ一線をあえてこえたのは…。赤ん坊のころ狼にさらわれ、狼とともに育った少年キセキ。1万年以上前の縄文時代に繰り広げられる、少年と狼たちの絆と進化の物語。

『天を掃け』(講談社)

黒川 裕子/著 中村 ユミ/絵



必要なら、何百夜かけてでも全天を搜索する。それが掃天-。短距離走者として期待されながらも、走れなくなった駿馬は、中学2年生の初夏、たったひとりで小惑星探索にいとむすばると出会う。駿馬はすばるを天文部に誘うが…。

『ボーダレス・ケアラー 生きてても、生きてなくてもお世話します』(理論社)

山本 悦子/著 竹浪 音羽/画



祖母が飼っていた犬の豆蔵が死んでひと月あまり。海斗は豆蔵の空のリードを持って散歩をすると、死後の世界へ行かずに生と死のはざまに立っている存在、「ボーダー」の姿が見えることに気がついて…。

『ゆめみの駅遺失物係』(ポプラ社)

安東 みきえ/著



あたしは、たしかに「なくしちゃった」とつぶやいたのでした-。中学生の主人公が訪れた駅の遺失物係には「おはなし」が届けられていた。なくした「おはなし」を探し聞く、美しくふしぎな物語。

『うちの父が運転をやめません』(KADOKAWA)

垣谷 美雨/著



高齢者ドライバーの事故を伝えるテレビニュースを見た雅志は、父親も78歳になることに気づく。不安になって、父親に運転をやめるよう説得を試みるが…。親の運転をきっかけに家族が新たな一步を踏み出す、心温まる家族小説。

無断での複写・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。

ほかにもあるよ おすすめの本

『零から0へ』
まはら 三桃/著
(ポプラ社)

『数え方図鑑』
やまぐち かおり/絵
(日本図書センター)

『ニッポンの刑事たち』
小川 泰平/著
(講談社)



貸し出し中の本は予約もできます。くわしくは職員におたずねください